

英語科学習指導案

日時 平成28年5月17日(火) 3校時

児童 4年生

授業者

場所

1 単元名 「どこにありますか」

2 単元について

(1) 単元観

本単元では、“Where is ~?”という場所を尋ねる表現と、“It’s on the ~.” “It’s in the ~.” “It’s under the ~.” “It’s behind the ~.”などの場所を示す表現を扱う。これらの表現を繰り返し聞いたり、言ったりする様々な活動を通して身に付け、友達がどこに隠したのか、隠した物を見つける活動を通して進んで表現できるようにすることを目指している。

単元の序盤は、新たな会話表現である物の場所を尋ねたり、示したりする場面の表現と出会い、それらを身に付けていくための活動を行う。尋ねたり示したりする表現は、相手がいて成立する会話表現であり、聞く、まねる、言う活動の際には、友達同士で関わり合いながら身に付けていくことができる。単元の中盤からは、絵の中に隠している物の場所を尋ねたり答えたりする活動に取り組んでいく。場所を探すために、ヒントとなる情報を聞き出す表現を使い、既習の表現と新出の表現の両方を活用することとなる。また、絵の内容を変えて複数のやりとりをすることによって、様々な場面で場所を尋ねたり示したりするため、やりとりの回数が増えたり、表現の幅が広がったりし、実生活のコミュニケーションに近いやりとりをすることができる単元である。

(2) 児童観

省 略

3 単元目標

ゲームなどの様々な活動を通して、Where is ~?といった場所を尋ねる表現や、It’s on the ~.などの場所を示す表現を身に付けたり、場所を示す表現とそのヒントとなる既習の表現を考えたりし、積極的に友達に表現できる。

4 評価規準及び道徳的学び

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションを 支える技能	言語や文化に関する気付き	道徳的学び
ア Where is ~? It’s on the ~.などの会話表現を聞いて反応したり、発音を真似ようとしたりしている。	ア Where is ~? It’s on the ~.などの会話表現を聞いて場所を理解したり、自ら言ったりしている。	絵本を読むことを通して、日本語と英語の物が置いてある場所の示し方の違いや新たに学ぶ会話表現に気付いている。	1-(5) 個性の伸長 自分が選択した表現に自信を持った り、やりとりの多様 性によさを感じてい る。
イ It’s on the ~.などの場所を示す会話表現と既習の表現を使って、進んで友達に表現しようとしている。	イ It’s on the ~.などとヒントとなる既習の表現を使って、物の場所を伝えている。		

5 単元の指導計画

時	主な学習活動	教師の働きかけ	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> Where is ~?という物が置いてある場所を尋ねる表現と It's on the ~.などの物が置いてある場所を示す表現に何度も出会い、意味を予想したり、単元で新たに学ぶ会話表現に気付いたりする。 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 場所をたずねたり、示したりする 言い方を確かめよう！ </div> <ul style="list-style-type: none"> 聞く、まねる、言う活動を通して、単語や会話表現を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本や動画によって新出の会話表現に場面を変えて何度も出合わせることで、表現の意味を予想しやすくしたり、新たに学ぶ会話表現に気付きやすくする。 聞く・まねる・言う活動の構成順にし、自分の持ち物の置く場所を実際に動かしたりしながら確認できるようにする。 	気 関ア
2	<ul style="list-style-type: none"> 聞く、まねる、言う活動を通して、単語や会話表現の復習をする。 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 場所をたずねたり、示したりする 言い方を言えるようになるう！ </div> <ul style="list-style-type: none"> ゲームなどの様々な活動で友達とやりとりをしながら会話表現を身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で確認しながら苦手に感じる表現を重点的に確認できるようにする。 活動では尋ねる人と答える人の両方を経験できるようにし、Where is ~?と It's on the ~.などの会話表現を身に付けていくようにする。 	関ア 技ア
3 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 聞く、まねる、言う活動を通して、単語や会話表現の復習をする。 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 友達がかくした宝物はどこ？ ミッションをクリアしよう！ </div> <ul style="list-style-type: none"> 同じグループの友達が隠した宝物の場所を質問し、協力して当てる。 2枚目の絵では、1枚目の絵のやりとりよりも既習の表現（色・大きさ・模様・形など）を用いた質問を多く取り入れてやりとりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> テンポよく確認し、活動時間を十分に確保できるようにする。 全体で試しに活動しながらルールを把握したり、相手（同じ班の友達）や目的（既習の表現と新出の表現を使って1回の操作で宝物を見つけること）を確認しながら課題に取り組めるようにする。 仲間とのやりとりを丁寧に行っているグループ（相槌を打つ・協力して場所を考えている・相手の方を見て待つてあげるなど）の発表により、コミュニケーションを図る態度を意識するように思考を促す。 新出の表現と既習の表現を使って多くやりとりをしているグループを発表させて価値づける。 違う絵を使うことによって、既習の表現を活用しないと1度で正解することができないため、新出の表現と既習の表現を組み合わせで伝えたり、答えが絞れるような既習の表現を使った質問をしたりするよう思考を促す。 	関イ 技イ

6 小中連携の視点

	小学校4学年	中学校2学年
目指す子供の姿	様々な活動を通して身に付けていた会話表現を使って、友達に場所を尋ねたり答えたりして表現する姿	地図や資料などから情報を読み取り、場所の情報や行き方などを詳しく相手に伝えている姿
手立ての視点	<ul style="list-style-type: none"> 本や動画など、様々な場面で活用されている新出の会話表現との出会い 会話表現を身に付けていくための聞く・真似る・言う活動構成の工夫 身に付いてきた会話表現を用いて、友達に伝える場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 相手、目的、場面を意識した学習課題設定の工夫 適切に情報を伝えるために、伝えるべき情報を整理させる活動の工夫 即興で表現するために思考を働かせる場の設定

7 研究とのかかわり

単 元 の 序 盤	<p>I 状況的興味の喚起・維持を促すために</p> <p>【会話表現との出会いの工夫】 “Where is ～?”という物が置いてある場所を尋ねる表現と，“It’s on the ～.” “It’s in the ～.” “It’s under the ～.” “It’s behind the ～.”などの物が置いてある場所を示す表現と、絵本や動画で何度も出合わせることで、以下の気付きを促すようにする。 ・繰り返し出てくるという“Where is ～?”という表現が場所を尋ねる表現であることと，“It’s on the ～.”などが場所を示す表現であること。 ・本単元で新たに学ぶ表現は場所を尋ねたり、示したりする表現であること。</p> <p style="text-align: center;">①会話表現の意味を予想したり、その内容に興味を持ったりし、新たに学ぶ表現に気付く子供</p>
単 元 の 序 盤 と 中 盤	<p>II 個人的興味の出現を促すために</p> <p>【会話表現を身に付けていくための活動の工夫】 聞く活動、まねる活動、言う活動（インプット→アウトプット）の順になるように活動構成を工夫し、十分に会話表現に触れながら身に付けていくようにする。その際、比較しながらよく聞く、そっくりまねる、リズムにのって言う、体を動かしながら言う、思い出して言う、選択して言うなども大切な要素である。また、尋ねたりそれに答えたりする会話表現が中心となることから、友達と関わる様々な活動を通して身に付けていくようにする。それぞれの活動では教師のフィードバックを挟んだり、不安に感じている表現を全体で確認したりし、児童ができるようになったことに自信を持って進んで伝えられるようにする。以下に具体的な活動を示す。 ・聞く活動（動かそう！ゲーム…It’s on the ～などの表現を聞いて、その通りに物を動かす。 ポインティングゲーム…絵を見て、教師から“Where is ～?”と尋ねられた物を指し示す。） ・まねる活動（まねまねゲーム…1人が言った新たに学ぶ会話表現を答え、そのものまねを全員でする。） ・言う活動（チャンツ…“Where is ～?” “It’s on the ～.” “It’s in the ～.” “It’s under the ～.” “It’s behind the ～.”の会話表現を速さを変えたり、音の大きさを変えたりして言う。また、慣れてきた頃合いを見て、子供だけで言ったり、日本語を聞いて英語に言い換えたりする。 どこか教えてゲーム…二人組で絵を見ながら、“Where is a dog?” “It’s on the bed.”などのやりとりをする。）</p> <p style="text-align: center;">②新たに学んだ会話表現を進んで伝える子供</p>
単 元 の 中 盤 と 終 盤	<p>III 発達した個人的興味の出現を促すために</p> <p>【新たに学んだ会話表現を用いて伝える場の設定】 「友達がかくした宝物はどこ？ミッションをクリアしよう！」という伝える場を設定する。グループの中の一人が絵の中に宝物を隠し、それを他の友達がどこに隠したのか、そして隠した宝物は何かを当てる活動を行う。これらの活動を絵を変えて2回行うことによって、当てる側には、既習の表現と新出の表現を使って質問をし、1度与えられた情報だけでは、答えを絞ることができずに、自分で必要な情報を聞き返す必要があるという壁を与える。児童にとってこれらが少し頑張れば乗り越えられる丁度良いハードルであり、進んでやってみたく感じる場の設定であると考えられる。</p> <p style="text-align: center;">III-(1) 内的活動の高まりを促すための工夫</p> <p style="text-align: center;">【壁を乗り越える思考の焦点化】</p> <p>本単元では■で設定した壁を乗り越えるために、伝える場がどのような状態であるかを再認識させることが大切である。この思考の流れを促すためには、1枚目と2枚目の提示により、子供がその違いに気付けるようにする。1枚目の絵ではスムーズに当てられていた活動が、2枚目の絵では試しの活動で上手く当てられないことを自覚させるようにする。その際、答えを絞るために既習の表現への焦点化を図るため、「何が違うのか」「どうして難しくなったのか」などを問い返すことを通して、答えを絞るために自分で質問をしていく必要性に気付かせ、既習の表現と新出の表現を結びつけていけるようにする。このような思考が働くことによって、必然的にやりとりの回数も増え、友達と協力しながらコミュニケーションを図るようになり、できたことを実感していく姿につながっていくと考える。</p> <p style="text-align: center;">③できたことを実感し、進んで会話する子供</p>

8 本時について（3/3時間目）

（1）研究とのかかわり

本時においては、主に研究の視点**III**にかかわって、手立てを講じていくことになる。

手立て**II**によって子供たちが新たに学んだ会話表現に自信をもって聞いたり、言ったりできるようになった段階で、手立て**III**を講じる。手立て**III**では、「友達がかくした宝物はどこ？ミッションをクリアしよう！」という伝える場を設定し、絵を変えて2回の活動を行う。イスやドア、箱などの側に切れ込みが入った部屋の絵を使って、それらの家具などの上・中・下・後ろに宝物を隠せるように細工する。当てる側には、1度与えられた情報だけでは答えを絞ることができず、自分で情報を聞き返す必要があるという、頑張れば乗り越えることができるような壁がある伝える場となるようにしていく。

また、**III-(1)**では、子供たちがより思考を焦点化しながら会話表現を構成していくことをねらいとしている。

1枚目の絵を使った活動がスムーズに進むようになった時点で2枚目の絵を提示し、同様の活動を行うことを伝える。2枚目の絵にも机やベッド、箱などの家具が描かれているが、色・大きさ・模様・形などに違いがあるものが複数配置してある。児童は、2枚目の絵を見た時には漠然と物の多さから難しさを感じると思われる。その後、試しの活動によって、1枚目と同じ方法では、やりとりが上手くいかないことを自覚する。その際、「1枚目との違いは何か」「どうして難しくなったのか」「どうしたら当てられるのか」などと問うていくことで、答えを絞っていく必要があることに気付かせ、答えを絞るために既習の表現と新出の表現を用いることに思考を焦点化させていく。

このような思考の焦点化により、必然的にやりとりの回数が増え、より実生活に近い豊かな会話が表現されるようになっていくと考える。

(2) 本時の目標

答えを絞るための既習の表現を使った質問と“Where is ~?” “It’s on the ~.”などの新出の表現を使って、進んで友達に宝物の場所を尋ねたり、答えたりすることができる。

(3) 本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 ■自己肯定感	■評価 個に応じた指導 (△発展的▲補充的)																				
<p>○前時の学習を復習する。</p> <p>Where is ~? It’s on the ~.など</p> <ul style="list-style-type: none"> 場所を尋ねる時の言い方は Where is ~?だね。 色々な場所を言えるようになったな。 <p>○課題を把握する。</p>	<p>□前時までに学習した表現を復習し、自信を持って本時の活動に臨めるようにする。</p>	<p>▲不安な表現がある児童は、その表現をみんなと一緒に声を出して確認するよう促す。</p>																				
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">友達がかくした宝物はどこ？ミッションをクリアしよう！</p> <p>ルール</p> <ul style="list-style-type: none"> グループの中で一人が絵の中に宝物を隠し、他の3人で協力してどこに隠してあるかを当てる。 解答権は1回だが、質問や聞き返すことは何回でもできる。 間違えたらミッションはクリアならず。次の人がまた宝物を隠してやりとりを進める。 <ul style="list-style-type: none"> 友達が絵の中に隠した宝物を当てるんだね。 答えは1回だけだけど、質問や聞き返すのは何回でもいいんだね。 今まで習ってきたことを使うといいね。 ミッションをクリアしたい！早くやってみよう。 																						
<p>○グループで活動に取り組む。(1枚目)</p> <ul style="list-style-type: none"> この場所は難しい言い方だから当てられにくいはず！ ○○君はここに隠すんじゃないかな。 <p>〈会話例〉※ の部分は自由に当てはめて考える。</p>																						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">伝える (1人)</th> <th style="width: 50%;">当てる (3人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(宝物を選ぶ)</td> <td>Are you ready?</td> </tr> <tr> <td>Yes! Let’s start!</td> <td>Where is the treasure?</td> </tr> <tr> <td>It’s in the desk.</td> <td>One more time, please.</td> </tr> <tr> <td>OK! It’s in the desk.</td> <td>In the desk? OK!</td> </tr> <tr> <td>Let’s finish! OK?</td> <td>OK! Let’s finish!</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(選んだ宝物を取り出して) It’s oo.</td> </tr> <tr> <td>Yes! That’s right!</td> <td>Good!</td> </tr> <tr> <td>Here you are. (隣りにボードを渡す)</td> <td>Thank you.</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○○ちゃんは It’s in the desk. って言ってたからここだね！ 順調にミッションをクリアできているよ。 簡単だね！場所がわかるようになってきた。 	伝える (1人)	当てる (3人)	(宝物を選ぶ)	Are you ready?	Yes! Let’s start!	Where is the treasure?	It’s in the desk.	One more time, please.	OK! It’s in the desk.	In the desk? OK!	Let’s finish! OK?	OK! Let’s finish!		(選んだ宝物を取り出して) It’s oo.	Yes! That’s right!	Good!	Here you are. (隣りにボードを渡す)	Thank you.	<p>□1回の解答で宝物を当てる活動を行うこと、友達と協力して当てることから、少し難しくても、できそうだと、やってみようという思いを高め、意欲的に取り組めるようにする。■</p>	<p>△やりとりがスムーズに行うことができているグループには、既習の表現を多く使うように促す。</p>		
伝える (1人)	当てる (3人)																					
(宝物を選ぶ)	Are you ready?																					
Yes! Let’s start!	Where is the treasure?																					
It’s in the desk.	One more time, please.																					
OK! It’s in the desk.	In the desk? OK!																					
Let’s finish! OK?	OK! Let’s finish!																					
	(選んだ宝物を取り出して) It’s oo.																					
Yes! That’s right!	Good!																					
Here you are. (隣りにボードを渡す)	Thank you.																					
<p>○2枚目の絵を見てやりとりに見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ物がたくさんあるから見つけるのが難しいなあ。 どこに隠そう？ここに隠したら見つけにくいだろうな。 どうやって見つけていこうかな。 色が違うもの、形が違うもの…これを見分けられると見つかるね。 What color?や What shape? って前に習ったことが使えそう！ 																						
<p>○既習の表現を効果的に使えるように質問に加えて活動に取り組む。</p> <p>〈会話例〉※ の部分は自由に当てはめて考える。</p>																						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">伝える (1人)</th> <th style="width: 50%;">当てる (3人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(宝物を選ぶ)</td> <td>Are you ready?</td> </tr> <tr> <td>Yes! Let’s start!</td> <td>Where is the treasure?</td> </tr> <tr> <td>It’s on the big box.</td> <td>What color?</td> </tr> <tr> <td>It’s red.</td> <td>OK! What shape?</td> </tr> <tr> <td>It’s star.</td> <td>OK! Star and red box?</td> </tr> <tr> <td>Yes! Star and red box. Let’s finish! OK?</td> <td>OK! Let’s finish!</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(選んだ宝物を取り出して) It’s oo.</td> </tr> <tr> <td>Yes! That’s right!</td> <td>Good!</td> </tr> <tr> <td>Here you are. (隣りにボードを渡す)</td> <td>Thank you.</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○○君はここに隠そうだから、最初は色を聞いてみよう！ 同じ色で大きい物と小さい物があるから、次は大きさを聞こう！ わかった！宝物はここだね！今みたいにやると当てられそうだね！ 面白い！もっとやってみよう。 	伝える (1人)	当てる (3人)	(宝物を選ぶ)	Are you ready?	Yes! Let’s start!	Where is the treasure?	It’s on the big box.	What color?	It’s red.	OK! What shape?	It’s star.	OK! Star and red box?	Yes! Star and red box. Let’s finish! OK?	OK! Let’s finish!		(選んだ宝物を取り出して) It’s oo.	Yes! That’s right!	Good!	Here you are. (隣りにボードを渡す)	Thank you.	<p>□1枚目の絵と比べて「何が違うのか」「どうして難しいのか」などと問うことを通して、既習の表現を活用する必要性に思考を焦点化するようにする。■</p> <p>□質問の内容や順番をどのようにしたらいいのか必要に応じて一緒に考えて、スムーズにやりとりが進むようにする。</p>	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">【関イ・技イ～観察・発言・ワークシート】</p> <p>▲色や形などを聞き出す表現を忘れてしまったグループには、一緒に確認する。</p>
伝える (1人)	当てる (3人)																					
(宝物を選ぶ)	Are you ready?																					
Yes! Let’s start!	Where is the treasure?																					
It’s on the big box.	What color?																					
It’s red.	OK! What shape?																					
It’s star.	OK! Star and red box?																					
Yes! Star and red box. Let’s finish! OK?	OK! Let’s finish!																					
	(選んだ宝物を取り出して) It’s oo.																					
Yes! That’s right!	Good!																					
Here you are. (隣りにボードを渡す)	Thank you.																					
<p>○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵の様子に合わせて、今まで習ったことを使って質問ができてよかった。 場所の言い方が言えるようになって嬉しい。普段も使ってみよう。 	<p>■様々な情報を聞き出す既習の表現を多く使い、その場の様子に合わせたやりとりができたことを価値付けし、今後の英語の学習への意欲を高めていく。</p>																					